

平成 30 年 4 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02150

研究課題名(和文) 美術史料として読む『集神州三宝感通録』霊像垂降篇

研究課題名(英文) Ji-shenzhou-sanbao -gantong-lu vol.2 Lingxiang-Chuijiang-Bian, Studying as the Material of Art History

研究代表者

肥田 路美 (HIDA, ROMI)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：00318718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：三年間で初唐の学僧道宣の著作である『集神州三宝感通録』のうち、各地・各時代の仏像の霊験50縁を集成した巻中「霊像垂降篇」の後半部について、訓読、現代語訳と詳細な注釈を付し、巻中全巻を完結させた。注釈は特に美術史の観点からおこない、付注項目は総計241項目を数える。また、抽出した問題点を更に追究した研究ノート計10編を得た。これらは毎年度末に『美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究(九)(十)(十一)』として公刊し、国内外の関係研究機関に配布した。その総頁数はA4版426頁に及ぶ。この成果は、中国の後漢から初唐に至る間の仏教の造形美術と信仰に関する基礎的研究である。

研究成果の概要(英文)：Ji-shenzhou-sanbao -gantong-lu, by dao-xuan in Early Tang, is the compiled text of stories about divine and miraculous efficacy appeared through Buddhist relics or statues. This study deals with the second volume of the text which is mainly consisted of stories about Buddhist statues committed by all over the nation before Dao-xian's time. This study has two academic significances. First, this paper provides the translated text into modern Japanese for the first time. In addition, the text is annotated in details from an art historical point of view. During last three years, I have worked translation and annotation of 20 articles from Bei-Wei to Tang dynasty. The result was published with the title, Ji-shenzhou-sanbao-gantong-lu studying as the material of art history, vol.9-11, 426 pages in total. It contains translation, 241notes and ten essays.

研究分野：中国仏教美術史

キーワード：仏教美術 道宣 霊験 瑞像 初唐時代 仏教信仰

1. 研究開始当初の背景

南山律宗の開祖で稀代の仏教史家でもあった道宣(596~667年)が残した『続高僧伝』『広弘明集』『釈迦方志』『釈迦氏譜』『集古今仏道論衡』『大唐内典録』等々の龐大な著作は、彼と同時代ないしその後の中国・朝鮮・日本の仏教界に多大の影響を与えたことは言うに及ばず、今日における仏教史や仏教文化研究にとってもまた、恩恵は実に計り知れない。美術史の分野においても、とりわけ仏教美術の作品やそれに関わるさまざまな事象について考究し理解しようとする時、これらは貴重な示唆と情報の宝庫として、必要欠くべからざる基礎文献とされてきた。

なかでも『集神州三宝感通録』上中下三巻は、仏塔や仏舎利、仏像彫刻や画像、寺院の堂宇、経巻など具体的な造形物を取り上げて、仏教が伝来した後漢時代から道宣の生きた初唐時代に至る間に、それらの上に現われたさまざまな靈異・靈験説話を収録した一書である。しかし、これまでは部分的に参照引用されるにとどまり、誤訳の多い『国訳一切経』所収本を除くと訳注もなされてきていない。

2. 研究の目的

上記の情況に鑑み、研究代表者は、2009~2011年、2012~2015年と過去二期にわたって科学研究費補助金(基盤研究C)の恵与を得て、同書巻上、巻中前半部について、現代語訳と詳細な注釈をおこない、その成果を公刊してきた。本研究課題は、これに引き続いて同書巻中「靈像垂降篇」後半部の北魏から初唐までの仏像の靈験について、取り組むことを目指した。

その背景として、近年とくに日本中世の美術史・文化史の分野において、靈験像、生身像、瑞像といった、靈験説話を伴うことで身体性を得た仏像に関する研究が目立って盛んになってきたことが看過できなかった。本文献『集神州三宝感通録』の記事は、一見、荒唐無稽の物語にも映るが、史料の性格を踏まえて読むことで、造形物に即した叙述の背景に何がしかの事実を看取することは不可能ではなく、一字一句に即して詳細な注解をおこなうとともに、美術史料としての有用性と意義を最大限に引き出すことを目的とした。

3. 研究の方法

仏像(彫塑像・画像)の靈異に関する記録50縁を集録して『集神州三宝感通録』の中核をなす巻中「靈像垂降縁」を対象に、『大正新脩大藏經』巻52所収本を底本とし、『中華大藏經』など大藏經諸本や、法弟道世の『法苑珠林』などに見られる同話も参照して用字を確認しながら、訓読、現代語訳をおこない、逐一の事柄や語句について注解をほどこした。注解は、原則的に初出の固有名詞すべてと、叙述内容に関する事柄を対象とするが、固有名詞についても通例の辞書の説明では

終わらせず、美術史・仏教史・文化史の立場からでき得る限りの拡大的解説を行なうことを方針とした。また、そのなかで得られた問題点をさらに掘り下げて、研究ノートの形で論述した。これらを通して、7世紀の中国および東アジア世界において仏像の靈験がいかなる意味をもったか、瑞像という語は歴史的にどのような意味で用いられたか、瑞像とよばれた仏像の造形的性格とは何だったのかを、律匠道宣の仏教史観と絡めながら考察した。

4. 研究成果

毎年度末に成果を『美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究』と題して公刊し、これまでの刊行分に続けて、第九冊、第十冊、第十一冊となる三巻を発行した。その内容は、中国北魏時代から著者道宣にとって同時代である初唐前半期までに当たる全20縁で、2015年度の成果である第九冊では、「元魏定州金観音像高王経縁三十一」「陳重雲殿并像飛入海縁三十二」「晋州靈石寺石像縁三十三」「周宜州北山鐵鉈石像三十四」「周襄州峴山華嚴行像縁三十五」「隋蒋州興皇寺焚像移縁三十六」、2016年度の成果である第十冊では、「隋釈明憲五十菩薩像縁三十七」「隋京師日嚴寺瑞石影像縁三十八」「隋邢州沙河寺四面像縁三十九」「唐坊州石像出山現縁四十」「唐簡州仏跡神光照縁四十一」「唐涼州山出石文有仏字縁四十二」「唐渝州相思寺仏跡出石縁四十三」「唐循州靈龕寺仏跡縁四十四」、最終年度にあたる2017年度の第十一冊では、「唐撫州降潭州行像縁四十五」「唐雍州藍田金像出石中縁四十六」「唐雍州コ梟金像出レイ縁四十七」「唐沁州像現光明常照林谷縁四十八」「唐岱州五臺山像変声現縁四十九」「唐遼口山崩自然出像縁五十」を対象とした。

付注項目は全部で241項目を数える。特に仏像や仏寺堂塔などの造形物とその信仰に関する事象に注意しつつ、美術史の視点から独自の長文の解説をおこなった項目の主なものに、「高王観世音経」「身代わりの仏像」「三段に折れた刀」「宮城内に奉安された経像」「輶輳車」「仏の帳」「葬送の飾り」「鴉吻」「建造物の飛行説話と仏像」「石仏を彫る手順」「幡蓋」「阿育王の感応」「玉華宮・玉華寺」「隋唐における離宮と仏寺」「南北朝時代における盧舎那仏」「行像」「五丈の木像」「子宝祈願の靈験像」「戴顓」「烏雀無踐」「娑婆への垂降」「阿弥陀仏五十菩薩像」「願力のりよりどころとしての仏の形像」「丹青」「公開を許さない仏像」「仏像の頭頂に奉安」「煬帝の文物蒐集」「幽塗の業鏡」「三学山」「甲冑を着けた大神」「文字が現れた石」「奇形の蓮華」「地方長官による祈雨」「仏像と祈雨」「悟真山寺」「焰光」「右膊を露出」「前秦時代の仏像」「造像における四月八日」「神模」「村落で輪番で供養する仏像」「道宣の貞観九年の山西遊行」「沁州の古迹」「唐の高宗と五臺

山」「会昌寺」「文殊師利像」「漢の明帝が創建した寺」「五臺山での靈驗」「高僧のミイラ」などがある。

また、各縁の記事に直接関係する問題を掘り下げた、研究代表者や研究協力者による論考は、全部で10編を得た。それらの題目は以下のとおりである。

「成都万仏寺出土釈迦立像龕の毘沙門天像についての一考察」(田辺理)、「説話と作例にみる阿弥陀仏五十菩薩図像の再検討」(小野英二)、「阿弥陀仏五十菩薩像に関する研究の現状」(黄夏)、「巴蜀地域における味だ仏五十二菩薩像 地理的分布・構成モチーフの変遷を中心に」(黄夏)、「瑞像」の語義と用例について 道宣に至るまで」(肥田路美)、「中国南北朝時代における仏像と感応 「阿弥陀仏五十菩薩像」縁起の検討を通じて」(稲葉秀朗)、「隋日嚴寺瑞石影像考 そのかたちの検討と転輪聖王」(稲葉秀朗)、「敦煌莫高窟壁画にみえる八角形建築について」(萩谷みどり)、「肉髻を起点とする雲気や光明の表現について」(熊谷麻美)、「インドにおける四面の礼拝像について マトゥラーの作例を中心に」(大木舞)。

なお、この第十一冊において、本文『集神州三宝感通録』の巻上・巻中の注釈の完遂を機に、これまでの付注総目録を作成し、利用者の便宜に供するとともに、本文の構成や性格を俯瞰的に考察する用意とした。

こうした結果、本研究課題の三年間の研究期間において、合計3冊の成果報告書を公刊、『集神州三宝感通録』巻中霊像垂降篇の国内外を通して初めての全訳・全注解を完成させることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

肥田路美「西域瑞像流伝到日本—日本13世紀画稿中的于闐瑞像」、『絲綢之路研究集刊』第一輯、p.200-214、2017年05月、査読無

肥田路美「四川で出土した南北朝時代の仏教石像をめぐって」、『アジア仏教美術論集 東アジア (後漢・三国・南北朝)』、中央公論美術出版、p.247-274、2017年05月、査読無

肥田路美「夾江千仏岩摩崖造像における地藏・観音並列像」、『四川夾江千佛岩唐代佛教芸術研究』、四川人民出版社、p.35-53、2017年03月、査読無

肥田路美「瑞像」の語義と用例について—道宣に至るまで—、『美術史料として読む『集神州三宝感通録』—釈読と研究—(十)』、p.163-170、2017年03月、査読無

肥田路美「敦煌将来絹本瑞像図に描かれ

たガンダーラ、コートン由来の仏像」、『アジア仏教美術論集 中央アジア (ガンダーラ～東西トルキスタン)』、中央公論美術出版、p.499-522、2017年02月、査読無

肥田路美「

韓普景訳、『東洋美術史学(韓国)』第4号、p.147-206、2016年09月、査読無

肥田路美「敦煌の瑞像図に見られる弥勒像について」、『美術史研究』53冊、p.125-146、2015年12月、査読無

肥田路美「安岳臥仏院の刻経と涅槃大仏—唐代四川の仏教社会基礎構造の一面—」、『氣賀澤保規編『隋唐佛教社会の基層構造の研究 明治大学東洋史資料叢刊12』、汲古書院、p.85-123、2015年03月、査読無

〔学会発表〕(計10件)

肥田路美「敦煌将来絹本瑞像図に画かれたガンダーラ、コートン由来の仏像」ソウル大学校考古美術史学科、招待発表、2018年11月16日

肥田路美「附銘佛教彫刻的意義與課題—以長安光宅寺七寶臺石龕像與奈良法隆寺金堂像為例—」、北大文研講座(北京大学人文社会科学研究院・北京大学仏教研究中心)、招待発表、2017年06月23日

肥田路美「南山大師道宣与番禾瑞像—以山岩表現与釈道安碑為着眼点」絲綢之路与聖容文化国際學術研討会(蘭州大学・金昌市人民政府)、招待発表、2016年08月12日

肥田路美「西域瑞像流伝到日本—日本13世紀画稿中的于闐瑞像」考古与芸術・文与歴史—絲綢之路研究新視野国際學術研討会(陝西師範大学歴史文化学院、陝西歴史博物館)、招待発表、2016年07月22日

HIDA, Romi, Indian Influence in the Iconography and Functions of Clay Tablets Excavated from Xi'an, AAS-in-ASIA Kyoto 2016 Conference (Association for Asian Studies) 2016年06月26日

肥田路美「龍門奉先寺洞盧舎那大仏をめぐって」龍谷大学アジア仏教文化研究センター學術講演会(龍谷大学アジア仏教文化研究センター-BARC)、招待発表、2016年02月28日

肥田路美「玄奘の仏像将来の意図をめぐって」玄奘フォーラム(筑波大学人文社会国際比較研究機構)、2015年12月13日

肥田路美「敦煌の瑞像図に見られる弥勒像について」、東洋美術史學會國際學術大會(東洋美術史學會(韓国))、招待発表、2015年11月07日

肥田路美「敦煌石窟の瑞像圖」2015 兩岸敦煌佛教藝術文化研習營(中央研究院歷史語言研究所・敦煌研究院)、招待発表、2015年10月12日

肥田路美「敦煌のいわゆる瑞像図・仏教史蹟図に関する二、三の問題」、中国仏教美術考古セミナー2015「敦煌莫高窟美術史研究の現在」(筑波大学人間総合科学研究科世界遺産専攻・成城大学民俗学研究所)、招待発表、2015年08月31日

〔図書〕(計4件)

肥田路美(編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究 (十一)」、総91頁、2018年03年、私家版

肥田路美(編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究 (十)」、総254頁、2017年03月、私家版

肥田路美(編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』 釈読と研究 (九)」、総81頁、2016年03月、私家版

肥田路美、高大倫、于春『四川夾江千佛岩唐代佛教芸術研究』、四川人民出版社、総270頁、2017年03年

6. 研究組織

(1)研究代表者

肥田 路美(HIDA,Romi)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号:00318718

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者(肩書は研究協力当時)

濱田 瑞美(HAMADA,Tamami)
横浜美術大学・准教授

下野 玲子(SHIMONO,Akiko)
早稲田大学・會津八一記念博物館・特任教授

森 美智代(MORI,Michiyo)
早稲田大学・文学学術院・非常勤講師

大島 幸代(OHSHIMA,Sachiyo)
龍谷大学・龍谷ミュージアム・助教

田辺 理(TANABE,Tadashi)
早稲田大学・総合人文学研究センター・助手

稲葉 秀朗(INABA,Hideaki)
早稲田大学・文学研究科・修士課程修了

徳泉 さち(TOKUIZUMI,Sachi)
早稲田大学・會津八一記念博物館・助手

黄 夏(HUAN,Xia)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

西川 真理子(NISHIKAWA,Mariko)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

萩谷 みどり(HAGIYA,Midori)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

羅 玲(LUO,Ling)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

易 丹韻(YI,Danying)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

熊谷 麻美(KUMAGAI,Mami)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

椋橋 彩香(KURAHASHI,Ayaka)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

斉藤 汐里(SAITO,Shiori)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

盧 超(LU,Chao)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

許 旻(XIU,Ming)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

小野英二(ONO,Eiji)
白河市文化財課・副主任学芸員

大木 舞(OHOKI,Mai)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

安宅 望(ATAKA,Nozomu)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

山田 麻里亜(YAMADA,Maria)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

堀越蒔季子(HORIKOSHI,Makiko)
早稲田大学・文学研究科・修士課程

本間 美紀 (HONNMA, Miki)
早稲田大学・文学研究科・博士後期課程

馬 歌陽 (MA, Keyang)
早稲田大学・文学研究科・研究生

西野 航 (NISHINO, Kou)
早稲田大学・文学部四年